

ちちぶだより



2025年 第352号

◆特別支援寮運用の現状	特別支援寮（どんぐり寮）寮長	須永 貴之…………… 2
◆特別支援寮の実践 I	強度行動障害支援主事	中田 竜太…………… 3
◆特別支援寮の実践 II	特別支援寮（どんぐり寮）副寮長	野口 修史…………… 3
◆特別支援寮の実践 III	特別支援寮（どんぐり寮）寮長補佐	日野 憲文…………… 4
◆夏の行事 I	療育支援課 特別支援室	加瀬 優奈…………… 5
◆夏の行事 II 「こども霞が関見学デー」		
	「国立障害者リハビリテーションセンター並木祭参加」	
	地域支援課 課長	渡邊 浩伸…………… 6～7
◆夏の行事 III カブトムシ・クワガタふれあい体験		
	地域移行推進課 課長	村上 功二…………… 8
◆各寮の様子	かりん寮	櫻井 朋子…………… 8
	けやき寮	小林 隼人…………… 9
	くぬぎ寮	小高 智史…………… 9
	どんぐり寮	野口 修史…………… 10
◆熊澤海道の「発達Age & 生活Age」	熊澤	海道…………… 11
◆職員の動き・入所児童の動き・行事予定	仲川	正徳…………… 11

特別支援寮運用の現状

秩父学園 療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮）寮長 須永 貴之

特別支援寮（どんぐり寮）につきまして、今号では「運用の続き」として、前号からさらに引き続き、特別支援寮の運用の状況について、お伝えさせていただきます。

前回のおさらいをすると、①特別支援寮の機能（強度行動障害の状態の児童を受け入れ、安心できる環境調整と支援の構築）をご説明させていただき、②寮の建物的な側面からの運用状況をお伝えさせていただきました。

これを踏まえた上で、運用開始からその後の状況を「直接的な支援のこと」・「児童を中心とする周囲の支援（移行や地域資源とのやり取り）のこと」・「運用上の課題点について」とそれぞれ異なる視点から書いてみたいと思います。

まずは直接的な支援の状況からお伝えします。今年度から着任された石田強度行動障害支援推進官とともに、入所前にアセスメントを実施することで入所までにできる限りご本人に合った環境調整を行っております。その上で前号にてお伝えした通り、7月に入所した2名の児童についてもスケジュールの導入・コミュニケーション支援・自立活動の提供などを行っております。それまでスケジュールを使ったことの無い児童が少し先の予測を持てることや、コミュニケーションのスキルを持っていなかった児童が言葉の代わりとなる手段を獲得することなど、

標準的な支援により児童が安心感を得られるよう努めているところです。

次に児童を中心とする周囲の支援について、地域生活移行などについてお伝えします。7月に入所した児童のうち1名は急遽移行先が決まり、11月に退所する運びとなりました。特別支援寮は児童の地域生活移行を通じて地域資源にも自閉症支援の理解を広めていきたいとするミッションを掲げているので、特別支援寮として初めての移行支援にも取りかかりました。具体的には移行先事業所のスタッフの方にご本人の特性をはじめとするアセスメント情報をお伝えする他、特別支援寮での支援をご覧いただき、共有させていただきました。大切なことは地域生活移行後もご本人が穏やかに、豊かな暮らしを実現されるための支援の継続にあると考えております。

最後に運用上の課題点についてお伝えします。地域生活移行支援で他事業所との連携に触れていますが、特別支援寮の事業は児童の人生の一部の時間＝通過点での支援となります。そのような事業形態において特別支援寮の開設前に想定した連携と、運用の実際場面における調整が課題であると考えられます。やってみなければわからないことは確かにあり、理想的な事業を目指して運用を開始したところですが、想定した運用と実際の差を確認し、埋める作業が当面の課題であると言えます。

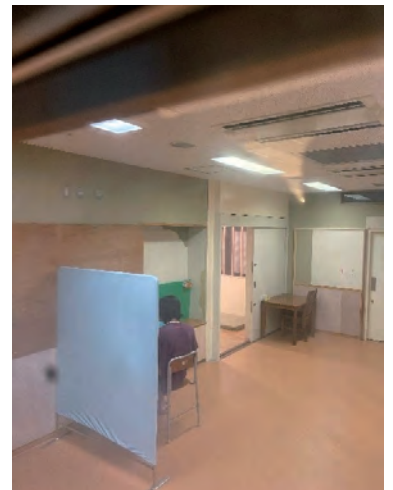
特別支援寮の実践 I

秩父学園 療育支援課 強度行動障害支援主事 中田 竜太

4月からの特別支援寮の運用実際における「環境」についてお話をさせていただきます。

生活していく上で、五感で感じとる情報は、生活に良くも悪くも作用していきます。それらは、環境に起因していることもあり、環境とのミスマッチを少なくしていくことで、生活しやすくなっていくと思われます。支援現場における環境についても同様で、人的・物理的環境等、ありますが、今回は物理的環境について、運用開始後の寮の様子をお伝えさせていただきます。前回までに、改修エリアと未改修で分けて運用しているとの話があったと思います。改修エリアには、各居室、クールダウン部屋の設定、また建物についてもある程度の強度が備わっており、視覚的にもあまり刺激が少ない状態となっています。未改修エリアには、クールダウン部屋のみ設定がされていますが、改修エリアとは異なり、既存の建物のような強度はございません。児童たちが落ち着かなくなった時、パニックになってしまった等の行動で、破損してしまう箇所もございます。破損箇所については、改修エリア、未改修エリアともにあり、破

損してしまうとそこが気になり、更に好ましくない行動に至ってしまうことがあります。壊れた場所に刺激を受けてしまったということになります。そのため物理的環境においては、日々職員同士、注意を払い支援しているところです。前にも述べた五感ですが、入所されている児童においては、感覚の過敏さ、鈍感さがあります。日々の生活支援の中から、児童たちをよく見て、どのような環境がよいか考えながら業務に当たっています。一人一人の職員が感じることを、チームとして共有し児童の支援に生かしていけるよう努めていきます。環境における工夫・アイデアをどんどん取り入れ、楽しめる空間作りや安心した環境作りに努めていきたいと思っています。様々なアイデアの情報をいただきますと幸いです。



特別支援寮の実践 II

秩父学園 療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮）副寮長 野口 修史

運用実際として、今回は実際の支援の現場から、特別支援寮入所児童の支援経過報告をさせていただきます。対象児童は、中学3年生の男児、7月28日に特別支援寮へ入所されました。強度行動障害児支援加算判定シートでは32点の点数で、強度行動障害の状態が表出している児童です。ご家族への他害や所在不明の状態になるなど、課題行動が表出しており、ご家庭での養育に限界がありました。特に、夏休みに状態が崩れやすく課題行動が頻出し、緊急性が高いと判

断し夏休みに入るタイミングでの入所となりました。入所前に児童相談所、療育相談機関、放課後等デイサービス事業所、学校関係者、秩父学園と、各関係機関で集まり、入所前カンファレンスを行いました。カンファレンスにおいて現在のご本人の状態を各関係機関で共有し、事前情報をもとに丁寧にアセスメントを行うことは、入所後特別支援寮で、標準的支援内容をもとに集中支援を行うにあたり欠かせないものとなります。支援の成功事例として、一例を紹

介します。入所前カンファレンスを受け、支援の事前準備を行い、まずは生活の中で日課の見通しを持って頂くため、デイスケジュール、カレンダーを用意しました。これは、学校生活においてデイスケジュール、カレンダーを使用しているという情報があったため、手順、方法の詳細を先生から引き継ぎ、ほぼ同じ内容での設定で支援に取り組みました。入所時に導入したところ、対象児童はデイスケジュール、カレンダーをよく見ており、スケジュール操作も学校と同様、スムーズに行い見通しを持てている状態が見られました。これは、学校との支援の共有化であり、アセスメントの結果であるともいえます。夏休み中の8月も、大きな課題行動は見られず穏やかに日課を過ごすことができました。見通しの提示

の他、特別支援寮内の、構造化された環境による居室設定や、生活空間における刺激の調整などの合理的配慮を設けたことも有効であったと思われます。一年間という有期限の中でまだ支援途上ではありますが、本当の課題は秩父学園退園後、地域においてどのようにすれば今後も安定した生活を送れるか、各関係機関でチームとして機能し、ご本人を支えるサポート体制、地域の支援体制を整えて実践していくことであると思います。対象児童が秩父学園退園後も、変わらず穏やかに、地域の中で生活していけるよう、切れ目のない支援を継続していく準備も行っており、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

特別支援寮の実践 Ⅲ

秩父学園 療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮）寮長補佐 日野 憲文

前回までは特別支援寮運用にあたってということでお話をさせていただいていました。今回は特別支援寮運用実際ということでお話をさせていただきます。前回話がいったようにまずはアセスメントを行い、ご本人像を捉えていくことになります。ご本人の行動特性と環境にどのようなミスマッチがあるのかを知り、環境調整を行っていきます。そこで下記のような手順書を作成し、現状はどうか、仮説として挙げられることは何か、そして、仮説により導かれたことを行うための目的を明確にして、今後どのようにしていきたいのかを明文化した上で、支援を行っていくことになります。職員も環境の一部

なので、統一した支援に当たるために職員の動きも明確にしておくことで、いつ誰が対応をしても同じになるようにします。もちろんこの通り行っても上手くいかないことがあるので、PDCA【Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）】サイクルを繰り返しながら、他職種や強度行動障害支援推進官と2週間毎に話し合いを行い支援を進めているところです。

1. 食事の下膳について



現状：食事終了後、下膳できずにいる。毎回職員の指示を待ってしまう。

推察：片付け場所がわからない。苦手なものを残せない。苦手なものが残れば、自発的な片付けの流れになるかもしれない。

目的：自発的に片付けて次の行動にうつれるようにする。

今後：

はじめは、職員の指示のもと片付けてもらい、次第に指示をフェードアウトする。片付けボックスに入れ、その後片付けボックスに設置されたキューカードをとり、スケジュール操作に行けるような自発的な行動の流れをつくっていきたい（期待）
苦手なものを残せるようなシステム作りができればよい。

【支援手順書】			
時間	本人の動き	職員の動き	備考
毎食食事時間	食事終了後、座ったまま待っている	見守り 苦手なものを受け取る	坐る指示待ちの時は見守り 白米スプーンなど残っているときは数秒待たないため片付けに移行できないことも考えられるので、現状は職員が近くに行き、箸を返して頂くよう受け取る。
食事終了後	食事トレーを持って立ち上がる。	見守り 「あっ」など部屋の声出しでは見守りを促して自発的な動きを見守ってください。	職員の方に持ってこようとしたら、片付けに進めないときは、ご本人の背後からのプロンプトをお願いします。
	食事トレーを片付けボックスに入れる。	見守り	
	居室スケジュール操作（作業へ）	見守り	
注意事項 事前準備：食事開始（スケジュール操作）前に片付けボックスを設置、食事へと移行してください。 内かくってくるなど他害に発展しそうときは、居室に誘導しケールダウンを図ってください。食事時、不機嫌になり食事にむかっていくことがあります。推察ですが、事柄の理解より食事を頂くことも考えられるため、安全第一に配慮をお願いいたします。			

夏の行事 I

療育支援課 特別支援室 加瀬 優奈



今年度も暑い夏がやって参りました。特別支援室では、療法士と共に児童が暑い夏を元気に過ごせる様に、プール、かき氷会、すいかを食べよう会の三つの活動を実施しました。

令和7年度のプールは、天候にも恵まれ入水出来る日が多く、児童の笑顔が多く見られた年だったと感じました。また、今年度は、特別支援室の職員が女性のみということもあり、プール開始に向けて、緊急対応マニュアルの見直しを行いました。各寮職員や医務室の協力があり、緊急時の対応をプールに携わる職員に伝えることができました。実際の緊急時



に向けて人員の確保にも努め、児童に安心してプールに入ってもらえることができました。

7月22日から午後の活動時間にプールが開始となりました。夏の午後は、気温がどんどん上昇し、所沢特別支援学校や入間わかくさ高等特別支援学校なども、熱中症警戒アラートが発令されたことにより、プールが中止になることがありました。しかし、秩父学園の児童は、夏休みの日課にプール活動が入っており、毎日プールを楽しみにしている児童が沢山います。どうにか夏の間のプールが中止にならない



ようにと、水温を下げるように井水を入れる時間を調整したり、プールサイドにバケツで水

を撒いたり、ファンミストを使用して温度が下がるようになど、試行錯誤をしながら中止になることなく最終日を迎えることができました。

夏休み期間はプール活動以外にも、児童に“The夏!!”を感じてもらえるようなイベントを企画しました。かき氷会を2回、すいかを食べよう会を1回実施しました。かき氷は事前に引き換えチケットを各寮に配布しており、当日は児童が受け付けの人にチケットを渡して、自分の好きな味のかき氷を受け取るシステムです。かき氷は暑い夏にピッタリで、どの児童も、おいしそうに頬張っていました。シロップの人気順は、1位いちご、2位まっちゃん、3位ブルーハワイでした。

すいかを食べよう会でも、チケットと引き換えにすいかをもらえます。このすいかは、給食の栄養士がみな同じ大きさのすいかになるようにと、切り方を調べて提供してください



ました。児童の中には「どれも同じ大きさだ～」と言う児童もいました。また、作業療法士は大きなりアルスイカを作成してくれ、すいかを食べ終えた児童がスイカ割りをして他寮の児童と交流する場面も見受けられました。色々な場面で、児童が笑顔になる瞬間を見られた楽しい夏休みになりました。



夏の行事 II

こども霞が関見学デー

地域支援課 課長 渡邊 浩伸

「こども霞が関見学デー」は、霞が関に所在するこども家庭庁をはじめ、各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子供たちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取組みです。秩父学園は厚生労働省の所管ですが、こども家庭庁から、障害のある子どもも楽しめる企画をとのお話をいただき、多くの方に秩父学園を知っていただく機会になればと思い、初めて参加しました。戸川作業療法士が中心となり、企画を考えました。

メインテーマは、共生社会を考えるきっかけをつくる（インクルーシブとは何かを考えよう！）です。サブテーマは、“平等と公平を考える”（合理的配慮とは何かを考えよう！）です。楽しく遊びながら、「優しい社会」とは何かを考える」です。輪投げ、射的、サイバーホイールの3つの活動を通じて、楽しく遊びながら、共生社会を考えるきっかけ作りになればとの思いがこめられています。

輪投げでは、くじを引いてもらい、グーかパーいづれか出た方で投げてもらいます。手の使い方を制限した形での輪投げを通して不公平を体感してもらいます。どうすれば同じように輪投げを楽しめるか考えてもらい、その後、グーの人は輪投げマシンを



使って投げることもできることをお伝えします。こうした配慮があれば、同じように輪投げができることを体験してもらいます。

射的では、高い壁を前に射的をしてもらいます。お子様だとの自

体が見えない状況で、そのままでは、射的ができないことを体感してもらいます。みんながゲームを楽しむためにはどうしたらいいかを考えてもらい、そのための工夫として用意しておいた高さが異なる台からご自身に合うものを選んでもらいます。その後、射的を3発打ってもらいます。台という合理的配慮があれば、みんなが同じように射的を楽しむことができることを体感してもらいます。

サイバーホイールとは空気で膨らんだ大きな筒の中でゴロゴロ転がって遊べる楽しい遊具です。まず始めにサイバーホイールに入る人、押す人を決めてもらいます。転がす人は、ゆっくりか速くしたいかなど入っている人に尋ねます。相手の意見を聞くことの大切さや気持ちを考えることの大切さを学んでもらいます。



3つの活動を終えたとき、インクルーシブな社会、平等と公平についてなど、親子や兄弟、お友達と話し合うきっかけ作りができればと3つの遊びの意図を記したチラシを配布しました。

おかげさまで、2日間でお子さんだけで200名以上の参加がありました。大盛況で2日目には予定していた景品が足りなくなる程でした。

こども家庭庁の皆様には、準備のみならず、当日ブースのお手伝いもしていただき、ありがとうございました。国立障害者リハビリテーションセンター職員の方々、国立障害者リハビリテーション学院の学生さん、また、ボランティアの皆様にも当日の運営のご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

国立障害者リハビリテーションセンター並木祭参加

地域支援課 課長 渡邊 浩伸

国立障害者リハビリテーションセンター及び国立職業リハビリテーションセンターでは、利用者、職員、学院生の文化的活動並びに利用者の平素の諸訓練やクラブ活動等の成果を発表するとともに、地域との交流を図り、両センターの事業の円滑な運営と発展の一助となすことを目的として、毎年10月に「リハ並木祭」を開催しています。日頃の訓練やクラブ活動の紹介、各部署の取組み成果の発表などを行っています。体験コーナーなどもありますし、障害のある方もない方も、大人の方もお子様も楽しめるイベントです。秩父学園は、今回初めて国立障害者リハビリテーションセンター並木祭に参加させていただきました。

地域療育支援室にいた時に担当したお子さんが毎年出店していた関係で一参加者として、並木祭を楽しんでいましたが、今回はお客様をお迎えする側になり、わからないことが多い中、不安でしたが、国立障害者リハビリテーションセンターの職員の方が丁寧に質問に答えてくださり、好評のうちに終えることができました。

内容としては、前述したこども霞が関見学デーの輪投げとサイバーホイールを行うとともに秩父学園紹介や支援グッズの展示コーナーを設置しました。

サイバーホイールについては、大人の方々は「怖い」とおっしゃる方もいらっしゃいましたが、お子さんには、サイバーホイールは大人気でした。もう1回もう1回と何度もリクエストくださるお子さんも多くいらっしゃいました。輪投げについては、お子さんだけでなく、大人の方も夢中になって投げてください、楽しんでいただけました。

秩父学園紹介コーナーでは、熱心に掲示物を見てくださり、熱心に質問をしてくださる方も多くいらっしゃいました。支援グッズの展示コーナーでは、「なるほどこのようにするとわかりやすいですね」「この支援グッズうちの子にいいかも」などの感想をいただきました。展示していた療育の課題に熱心に取り組むお子さんの姿も見られました。一方で「秩父学園、学校なのかと思ってました」など、まだまだ地域の皆様に知られていないのと再認識するきっかけにもなりました。職員にとって地域の皆様と交流し、お声を聴く貴重な機会です。次年度、参加するとしたら秩父学園の児童にも秩父学園ブースを手伝ってもらい、地域の皆様と交流できたらいいなと思っております。これからもカブトムシクワガタ体験などを通じて、地域の皆様に秩父学園のことを知っていただく機会を作っていきたいと思っています。



来場していただいた方へのお土産として、戸川作業療法士が中心となり、秩父学園内に生えている竹を切り出して作ったストラップを配布させていただきました。大好評で、予定した数が終了前になくなってしまいました。

秩父学園の児童も多数来園しました。秩父学園だけでなく、他のブースを見て回り、お祭りを楽しみました。帰ってからも満足した様子で買ってきた物を職員に自慢するなどの様子が見られました。



夏の行事 Ⅲ

カブトムシ・クワガタふれあい体験

地域移行推進課 課長 村上 功二



情報発信及び地域社会との連携強化の一環として、地域の親子や放課後等デイサービス事業所（その他、児童発達支援事業所等）に通う小学生までのお子様と家族や支援者等を対象に、7月27日（日）、8月3日（日）、15日（金）、29日（金）、9月10日（水）日程で計5回、秩父学園内でカブトムシ・クワガタを探す、触れる（ふれあい体験）イベントを実施しました。参加者数は4回の開催で、25家族・75名が参加しました。初めての取り組みでしたので、まず、6月から準備を開始し、カブトムシの幼虫を探しました。すぐに、特定の場所から、たくさん出てきました。しっかり成虫になるように、トイレットペーパーの芯中に入れて、成虫になるのを待ちました。しかし、所詮素人のためか、多くの幼虫が亡くなってしまいました。体験会の日程までの餌やり、成虫探しも大変で、勤務時間終了後に、ス



タッフで手分けして探しました。次第に、世話も上手になってきたのか、亡くなることも減り、無事に体験会を迎えることができました。

体験会本番は、参加された子供達は、大変楽しみにしていて、室内でのカブトムシやクワガタふれあいでは、大はしゃぎして、準備した箱から探し、見つかったら「いた！」と皆大喜びでした。その後の学園内の実際の森での散策もカブトムシ以外のチョウチョやバッタを探したり楽しく過ごし、子供達も、ご家族も暑い中最後はぐったりしていました。「また来たい！」と言ってくれる子供達が多く、秩父学園を知っていただく良い機会となりました。来年以降も、また、ご期待に応えて開催したいと考えています。準備をしてくれたスタッフ、参加していただいた地域の皆様に感謝です。

体験会本番は、参加された子供達は、大変楽しみにしていて、



室内でのカブトムシやクワガタふれあいでは、大はしゃぎして、準備した箱から探し、見つかったら「いた！」と皆大喜びでした。その後の学園内の実際の森での散策もカブトムシ以外のチョウチョやバッタを探したり楽しく過ごし、子供達も、ご家族も暑い中最後はぐったりしていました。「また来たい！」と言ってくれる子供達が多く、秩父学園を知っていただく良い機会となりました。来年以降も、また、ご期待に応えて開催したいと考えています。準備をしてくれたスタッフ、参加していただいた地域の皆様に感謝です。



各寮の様子 短い秋を満喫



かりん寮

秋の風が心地よく感じられる季節となりました。かりん寮では9月末にお月見の行事として、黒の画用紙に月やウサギを貼り付ける工作を行いました。折り紙をちぎって色を選びながら丁寧に月を作る子や、かわいいウサギを一生懸命作る子など、それぞれの個性が光る素敵な作品ができあがりました。全ての工程を行うのが難しい子も、折り紙をちぎったり貼ったり



する工程を楽しみながら積極的に取り組む姿が見られました。お月見の日に出たデザートのカキをみんな嬉しそうに食べ、笑顔いっぱいのひとときとなりました。10月31日にはハロウィンを行いました。それぞれが、思い思いの衣装を選び、仮装を楽しみました。衣装を選ぶと



ころからワクワクな様子のかりん寮の女子達。ハロウィンの当日をととても楽しみにしていましたが、ちょっとドキドキして緊張している姿も見られました。緊張しながらも、事前に選んだかわいい姿に変身して、他寮の男の子と一緒に学園内を練り歩き、「トリック・オア・トリート！」と元気に声を掛けな

がら本館を回りました。みんなお菓子をもらって大満足の様子でした。季節の行事を通して、子ども達の笑顔と成長をたくさん感じられた秋でした。一人ひとりのがんばりを大切にしながら、実りの多い秋を共に楽しく過ごしていきたいと思います。

櫻井 朋子

けやき寮



暑い日が続いた今年の夏は様々なイベントを満喫したけやき寮の児童たち。8月には夏祭りとして花火を行い、様々に変化する火花の色に目を輝かせていました。所沢警察署の見学ツアーでは交通安全教室に参加し、パトカーと白バイに乗車しました。8月の最後には、楽しかった夏休みの締めくくりと2学期もまた頑張らしましょう、ということと「けやき寮お疲れSummer会（カラオケ大会）」を開きました。



好きな歌を歌ったり、他児童が歌っている曲を聴いたり、お店の食事を満喫しながらたっぷりと楽しんできました。そうして始まった2学期。新しい気持ちで張り切って登校する児童たちでした。

開きました。好きな歌を歌ったり、他児童が歌っている曲を聴いたり、お店の食事を満喫しながらたっぷりと楽しんで

新学期が始まりしばらくすると少しずつ夏の日差しが影を潜めるようになりました。最近では地面に重なる落ち葉や木の实を見かけるようになり、秋の深まりを感じます。学校ではマラソンの練習や文化祭の準備など、秋の行事に向けて日々意欲的に取り組んでいるようです。帰寮後はゆったりと風呂に浸かったり、好きなテレビ番組やDVDを観たり、音楽を聴いたりしながら心身共にリラックスして過ごしています。



このようにオンとオフを切り替えながら過ごし、また明日への活力を蓄えているようです。夏の暑さがなくなり過ごしやすい季節にはなりましたが昼夜の気温差が大きい時期でもあるので、健康面には十分に気をつけていきたいと思います。

小林 隼人

くぬぎ寮



金木犀の甘い香りが漂い、秋の深まりを感じる今日この頃、お元気でお過ごしでしょうか。空は高く澄み渡り、学園の木々も日毎に色づいて、美しい季節となりました。



日中は爽やかな秋晴れの

日が続く、くぬぎ寮のこどもたちは外で元気いっぱいに楽しんでいます。色づいた木の葉やどんぐりを見つけたり、秋ならではの発見と成長が見られます。

さて、10月は一年の中でも過ごしやすい季節で、学校でも学園でも様々な活動を行っています。学校では、10月に緑明祭（入間わかくさ高等特別支援学校）、11月にはトコトコフェスティバル（所沢特別支援学校）が催され、こどもたちは日頃の練習の成果を演奏などの発表で発揮してくれました。また、くぬぎ寮でも学校の開校記念日に合わせてドライブ外出に行き、みんなが大好きなマクドナルドでテイクアウト

トしてきました。

ところで、秋と言えば、食欲の秋ですが、学園でも旬の食材を使用し、おいしいご飯が提供されています。サンマや豚汁、ハロウィンの日にはスイポテデニッシュやポタージュスープなどハロウィンをイメージした料理が提供され、こどもたちも大変うれしそうに食べていました。また、土日祝日には自然豊かな学園内でお散歩やかけっこ、ブランコなどをして過ごしています。どんぐりやすすきなど小さな秋探しをして楽しみました。

12月にはクリスマス会などの様々な行事を予定していますが、こどもたちの楽しみを大切にしながら、安全面には十分配慮して進めて参ります。引き続きご協力をお願いします。

小高 智史



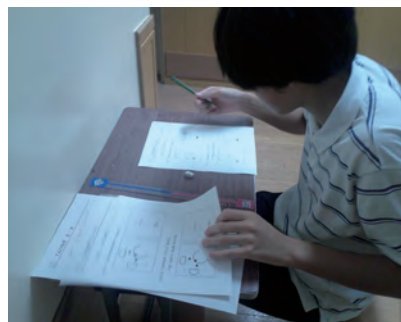
どんぐり寮

残秋の候、日に日に寒さが増してまいりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。どんぐり寮では特別支援寮として4月に開設され、以降、新たに2名の児童が入所されました。11月には、新



たに1名の入所予定があります。新規入所された児童は、一年間の有期限での生活となります。カレンダーやスケジュールを使用し、日々見通しを持ちながら生活しています。今年の夏は暑く、熱中症予防のため園内散歩や体育館へ行く機会も制限されていましたが、9月以降、少し涼しくなったため、体育館で身体を動かす機会を設けることができました。体育館では、壇上にあがり大きなボールを転がして遊ぶ児

童、トランポリンで思う存分身体を動かし楽しむ児童、体育館の柔らかいマットで横になり、マットの感触を楽しんで過ごす児童



もいて、秋が近づく季節の中、皆様それぞれ楽しいひと時を過ごしました。また、どんぐり寮の児童の皆様は、それぞれ個別のスケジュールを使用されています。週末は園内散歩や体育館のほか、スケジュールを使い自動販売機でジュースを購入することも行っています。個別のスケジュールですので児童の皆様それぞれのペースで、日課を過ごし、余暇を楽しんで頂くようにしています。これから本格的に寒くなってくるので、どんぐり寮職員一同、児童の皆様の体調管理に気を配りながら、日々の支援に取り組んで参ります。皆様も体調を崩さぬよう、どうぞ温かくしてお過ごしください。

野口 修史





熊澤海道の「向かい風 反対向けば 超追い風！」

発達 Age & 生活 Age

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

最近、年甲斐もなく新しいゲーム機を購入して少年のように心をときめかせている熊澤です。

齢43歳熊澤、個人的に「もうゲームにハマる歳でもなかろう」と思っていたのですがハマってます。おおよそゲームに没頭するだろう年齢を10代・20代と仮定すると生活年齢が合っていないんです（笑）。

これはなぜだ？と考えたら「今までの経験からきてるんだ！」という仮説に辿り着きました。小学生くらいからゲームが好きで「ゲームは楽しい！」という経験が熊澤の中に落とし込まれていたのです。

支援の中でも似たようなことを考えることがあります。

「発達年齢：2歳」で「生活年齢：17歳」の方がいたとします。いわゆる「定型発達」を考えて「2歳」での「運動」や「言語」「コミュニケーション（社会性）」などの発達を考慮して評価・支援を計画してい

くかと思えます。ここで気をつけなきゃなと感じるのは「発達年齢は2歳だから〇〇はできるはずだ」や逆に「〇〇は難しいだろう」と思い込み、同じ支援やプレパレーションを延々と続けることです。確かに発達年齢は2歳かもしれませんが。しかし、忘れてはいけません、この方には「17年の人生経験」があることを！「発達年齢としてはできるけど経験上やりたくない」ことなんて山ほどあるのではないかと思います。その人が積み重ねてきたものに目を向けて支援を考えるとまた一つ「人を知る」ことに繋がってくるのかなと思う今日この頃です。



令和7年11月1日付新規職員採用



新規採用
赤塚 望
(育休代替)
療育支援課
心理療法士

編集後記

今年、療育で久方ぶりに野球をする事になりました。意外にも、現役の頃より身体の使い方が上手くなっていて教え方も当を得るように。支援技術も上達していると良いのですが。
(仲)

❖入所児童の動き

9月に、男児2名、11月に男児1名、千葉県、埼玉県に移られました。

11月に女児1名新規に入所されました。

行事予定

12月	各寮クリスマス会
12月25日	クリスマスランチビュッフェ
1月1日	新年の集い
1月	明治工場見学・資生堂ライフクオリティセミナー・焼き芋会
1月31日	自閉スペクトラム症子育て支援セミナー

発行日 令和7年12月26日

発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園

住所 埼玉県所沢市北原町860 TEL 04-2992-2839 FAX 04-2995-2253

chousa-chichibu@mhlw.go.jp

《秩父学園児の歌》



一、わかばゆれ

ひかりかがやく

むさしのに

のびゆくわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

二、ふじのみね

たかくそびえて

みそらすみ

いそしむわれら

ちちぶがくえんじ

われらわれら

ちちぶがくえんじ

